

## 全 体

1. 説明時間を標準3分とし、最低限必要な項目を例示できないか。  
ガイド個人に任せる。お客様の目的、興味などで一様に決まらない。  
お客様の要望による「ご案内の内容・時間」を考慮して出来るだけ簡潔に案内する。
2. 説明時に使う図、写真等の補助資料は統一し、全員で共有できないか。(現状は個人でバラバラ)  
以前、事務局に提出して欲しい旨、連絡したが集まってこない。これほと思う資料は事務局に提出して欲しい。事務局に集まった資料は「連絡の窓」に掲示や、配布をする。  
「連絡の窓」令和2年4月号に掲載済。
3. 流山に人類が住み始めたのは、遺跡から3万年前とのことであるが古代社会を形成するのは更に1万年後位ではないだろうか。  
質問者が調査し、定例会の勉強会で発表して欲しい。

## 本 町

1. 本町並びに周辺における寺院が多い理由と歴史的背景について  
江戸川が整備され、江戸への水運で河岸として発展し、人が多く集まり村が形成された。  
人が集まれば、宗派別のお寺もでき、自分たちの鎮守さまとしての神社も建てられた。
2. 明治時代の産業熟成期での金融資本の脆弱性について  
質問者が調査し、定例会の勉強会で発表して欲しい。
3. 本町界隈の味噌、醤油業者の販売先は？  
販売先は、醤油が殆んど東京。味噌は地元中心が多かった。
4. 加村河岸（本多河岸）の本多家（下総国飛地領1万石）年貢米取扱量は？  
年貢は村ごとに決まっており、五公五民とすれば、加村河岸、松戸の本多河岸と合わせて5千石である。
5. 本多家の流山4ヶ村の管轄は、船戸代官所か藤心代官所のどちらか。  
船戸代官所である。
6. 本多家加村台御屋敷の写真はあるのか。  
写真はないが、屋敷を改築した県庁のイメージ図はある。「連絡の窓」令和2年4月号掲載。
7. (1) 本多家加村台御屋敷に用人が来た記録はあるか。  
質問者が調査し、定例会の勉強会で発表して欲しい。  
(2) 下級武士の宿泊所で飛地領の行政はしていなかったのか。  
御屋敷は、江戸詰め家臣の住居目的で行政は行っていない。文久3年（1863）建築で明治維新まで5年間の使用。飛地領の行政は船戸代官所、藤心代官所が行っていた。
8. 流鉄流山駅舎は大正5年開業当初の木造駅舎か。  
駅本舎は当初の大正5年の建築である。これまで修理や改造が加えられている。

## 9. 流鉄流山線の最近の乗降人数と武蔵野線、つくばエクスプレスの影響は？

武蔵野線、TX などにより沿線地域から旅客を奪われる状況となっている。

流山線の1日平均乗降客数は、H16年度 28,902人、H17年度（TX開業）20,480人、以後減少している。H18年度 15,686人である。（流山駅間合せ）

## 10. 丹後の渡しについて

(1) 新選組の来流ルートといわれているが、公認の渡し場の管理の実情は？

(2) 幕末で警備はゆるかったのか。

(1)、(2) の回答

丹後の渡しは、江戸時代以前からあった。当時は八木野の渡しと呼んだ（町誌）。江戸初期は渡船が厳しく1631年、伊奈半十郎が出した「渡船制禁の掟」には「樵耕以外たやすく通すまじく」とある。享保年間、江戸川の改修で分村されたので多くの渡しが出来た。幕末には、フリーパスの状態になっていたと思われる。

(3) 松戸経由説もあるが、真偽は？

松戸ルートの真偽はわからないが、五兵衛新田・三郷・流山の三郷ルートは「松戸市史」、「三郷の歴史」が支持している。（「流山の江戸時代を旅する」 P58 参照）

ガイドの会としては三郷ルートで統一する。

## 11. 江戸川について

(1) 自然堤防として店舗が並んでいた時代は河川岸との距離はどの位か。

明治13年の迅速図を参照して判断してほしい。

(2) 河川の幅はどの位か。

丹後、矢河原の渡し付近で、約180m、深井新田で約200m

東葛飾郡誌によると、場所によって異なるが約200m前後である。なお、渡しの場所や川幅は時代によって変化している。現在、江戸川にある標柱は、昭和28年の地図をもとにしているが、迅速図と大きくかけ離れているところも多い。

(3) 江戸時代後期から大正土手ができるまでに何回洪水があったか。

江戸川の洪水記録は、江戸中期から明治43年の洪水について「流山の江戸時代を旅する」P138～142に記載されている。

(4) 洪水に遭った店舗の被害や再建記録はあるか。

質問者が調査し、定例会の勉強会で発表してほしい。

## 12. 旧流山橋は老朽化で取り壊されたと説明している人がいるが、昭和土手ができるので高さを合わせるために取り壊して新流山橋が出来たのではないか。

昭和土手の高さに合わせるためと自動車の大型化に対応するため旧流山橋を取り壊し、新流山橋を建造した。

## 13. 「根郷」、「加」、「加岸」、「宿」の地域の内容が知りたい。

(1) 昔の「村」の名前なのか。

加は加村、加村のうち高台部分を加村台や加台、江戸川と接する低地部分を加村岸や加岸と言った。根郷、宿は流山村の地区をいう。

## (2) 具体的な範囲（現在の町名）

根郷：流山1～4丁目、宿：流山5～8丁目、加台：加1～4丁目、加岸：加5～6丁目

## (3) いつ頃から使われていたのか。

江戸時代

## (4) 流山地名伝説の「流山」との関係は。

関係ない。

流山村の根郷地区は商人、宿地区は職人が多くいたと伝えられている。

## (5) ガイド時の説明に使ってよいか。

使用して構わない。

## 14. (1) 各時代の日常生活、娯楽等や他の地域との関わり合いを知る資料があれば教えてほしい。

例：吉野家日記からわかる芝崎村の生活の様子等。

「流山市史」民俗編 平成2年3月刊行 に詳しく記載されている。

「流山の江戸時代を旅する」 青木更吉 P40～54に掲載されている

## (2) 江戸時代以前の太日川の状況、小金牧が整備される以前の集落、人口、田畑や作物、林や川との生活のつながり等を知りたい。

質問者が調査し、定例会の勉強会で発表して欲しい。

## 15. 自然堤防～大正～昭和の堤防の変遷について原因となった災害または他の理由があったのか。

## ・大正堤防

江戸川は、江戸後期に頻繁に洪水があった。特に明治43年は、大洪水で埼玉県側は被害甚大であった。流山側は、床下、床上浸水で済んだ。これをきっかけに堤防建設が行われた。

建設が始まったのは、大正3年、完成は「東葛飾郡誌」によれば大正12年である。

## ・昭和堤防

昭和22年カスリン台風での大洪水被害の反省から、利根川水系一律に高堤防化を推進した。

2回目の堤防改修開始は昭和30年代で完成は30年代末である。

## 16. 県道（流山街道）の完成時期

昭和38年と説明しているが、根拠なる資料を知りたい。

## 17. 呉服三河屋

倒産した理由を知りたい

## 18. 清水屋店舗

道路切り下げによる店舗改修の具体的な内容を知りたい